

# おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

## プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）  
東京で大学・研究室生活を経てUターン  
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる  
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）  
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）  
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

## 「たいこうやね！」

私だけではありますまい。他人を誉めたつもりが、全く逆の意味にとられて、内心あきや！と思ったこと。こちらが相手を称賛するつもりで言ったことが、その地域ではとんでもなく失礼なことばになっていたことを後から知ってどうしょば！と後悔したこと。

たとえば、新潟の方言に「しんなら強い」という表現がありますが、見かけはヤワだが、芯は強いといった意味で、誉めことばとして使います（とずっと思っていました）。ところがあわわわ、県内（主に中越地方）では、なぜか「一見ひ弱そうだけど、なかなかしぶとい・くたばらない（真意は早くくたばってね）」という感じの罵り語の意味で使うことがあり、注意が必要です。

とくに、新潟弁で古語や死語になりつつあることばは、話す相手や地域によっては誤解を生むことがあるようで、今更ながら反省しておりました。

そんな中で、最近耳にして感動さえ覚えたそれは「たいこうやね！」。万代太鼓の話でもなければ、金融機関の話でもありません。太閤秀吉のように偉い！という誉め言葉です。

歴史上の人物は、人によって評価や好みが分かるところでしょうが、大阪城を築城し、天下の台所に発展させた太閤秀吉は、いわば浪速のヒーロー。その秀吉にちなんで誉め言葉として「太閤やね」ということばが生まれたようです。これが、なぜ、新潟に残っているか？おそらくかつて新潟が、北前船等の西との交流があったということと関係ありそうです。

新潟の方言の特色の一つに、「〇〇らて」「〇〇らがあてえ」「〇〇ですて」「〇〇だすけ」「〇〇

らすけ」といった語尾の多様化（共通語の「です、ですから」にあたる）があげられます。一説では「〇〇だ（ら）すけ」は関西弁の「〇〇さかい」が変化したといわれています。（SAKAI⇒DASUKE⇒RASUKE に変化。発音してみてください！）「だすけ」も「らすけ」も、この「たいこうやね」も、遠く西のくにかから、新潟の地に物資と共に錨をおろして根付いていったのかも知れません。利発な子の頭を「たいこう（さん）やね」と撫で撫でする優しい大人の様子が目に浮かんできます。と、ほのぼのしてはいられない地域もあるのが方言のおもしろさ、いや難しさ。

北陸地方では、「たいこ（う）やね」が、「役立たずやね！」と罵りことばとして使われていたと言いますから、地域によって発言に気をつけなければいけません。役に立たない役者を大根役者というように、「大根やね」がその真意のようです。

何気なく口にしたほんの一言が、思わぬ大問題に発展することも多々ある昨今です。人一倍にとんときな私は気をつけようと思います。と同時に、言い間違い・聞き間違いにも注意しようと思います。先日、ある会合で「これより〇〇第〇例会を閉会いたします！」と元気に開会宣言をしましたし、「未必の故意」を「密室の恋」、「汚職事件」を「お食事券」と取り違え、ひとりニタニタして周りから怪しまれたこともありますから、これを機に「たいこうやね」と誉められるように心してことばと取り組んでいきたいと決意しました。

